

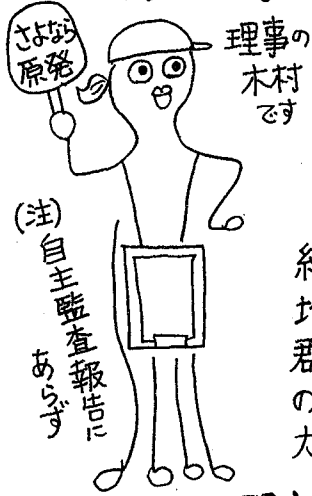
青森・六ヶ所核燃料サイクル視察ツアーに行ってきました～

2015. 4. 12～13,

「六ヶ所村再処理工場に反対し、放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」→(長くて誰も正式名称が言えないので、「阻止ネット」の通称で呼ばれている)の視察ツアーに群馬単協を代表して参加!

総勢48名、生活クラブ、グリーンコープ、パルシステム、大地を守る会、あいコープみせぎ、他、地元の市民団体と、NPO原子力資料情報室から伴英幸氏。群馬からは私の他に「エネルギー自給型梅農家」湯浅直樹氏(上里見町)が大地を守る会の一員として参加されていました。ガイドは「核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団」山田清彦氏。

阻止ネット: 生活クラブや上記団体や日本消費者連盟が呼びかけ六ヶ所村の使用済核燃料再処理工場の本格稼働に反対し、2007年から活動している。



(注)自主監査報告にあらず



「原発とめよう群馬」の協力で空間線量計(ホリバのラディー)を持参しました。

東北新幹線車中でラディーの数値どんどん上がる(単位 $\mu\text{Sv/h}$)
白河 0.08 → 郡山 0.16... フクシマ 測りそわれ
白石蔵王 0.04 → 仙台 0.03
トンネルに入ると 0.16 → 0.04 に。
車中で 0.16 だと、外は かなり 高線量。

ちなみに群馬は高崎前橋なら 0.04～0.05
赤城中腹で 0.09 前後

初日は12時 青森駅集合。
まず市民ホールで「4.9反核燃の日」全国集会

■伴英幸氏の基調講演
「再処理から撤退し青森の自立へ向けて」
再処理をやめて六ヶ所村の財政を地域資源、地域産業を生かした将来像を立て直すお話。

■各団体から発言
生活クラブは 埼玉・清水理事長が生活クラブエナジの報告と「六ヶ所に核のゴミ集中は取っつきにくいこと。地球規模で原発をなくすことだ」と頼もしくスピーチ。

群馬の湯浅氏は「原発事故で椎茸農園の廃業を余儀なくされた。食・水・エネルギー自給を目指し自然エネルギーで10軒分の発電をしながら、梅を育てている」

■折しも統一地方選、ただ中!!
脱原発候補・大竹すすむ氏(医師)知事選に出馬。特別発言「青森は核の補助金まみれとされているが お金が入るのはたった2割の人」
知事選は6月7日迄

集会後は青森市内をデモ行進

先頭に行く、他人とは思えなかつたお姉さん
たいこたたいて笛吹いて。赤黒ツートン衣装★

デモをしながらチラシを配りましたが青森駅周辺は前橋駅前以上に人通りがないっでも、わずかな通行人はチラシをしっかりと受け取り「がんばって」と声もかけてくれ感動。
デモ撮影は「脱原発デモ・カメラマン」の秋山理央くんでした。(カッコイイ!!)



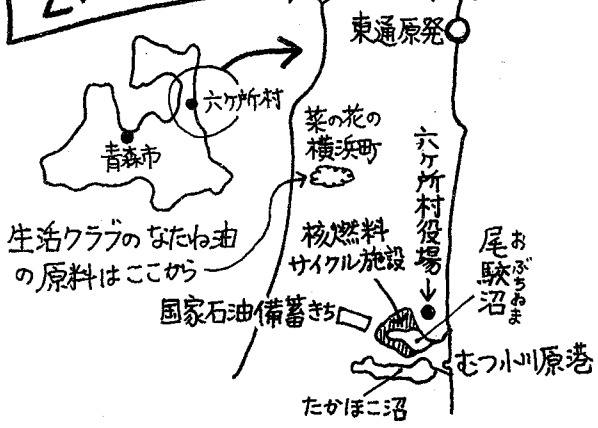
夜は交流集会 酒が出るのは1時間後ときいていたのに最初から出る。供されたのはシラウオ(おどり食い)、スズキ、牛肉、毛ガニ、タコ、イカ、ゴボウ、ニンク etc... 全て名物。青森の理事曰く、「ここは豊かな所。海の幸も畑の幸もある。あんなもん(再処理工場)なくなると、全然困らない!! 貧しいと思われて核のゴミ押しつけられて。持って帰ってて言いたい」



わがごとの様に喜んでくれる阻止ネットメンバー

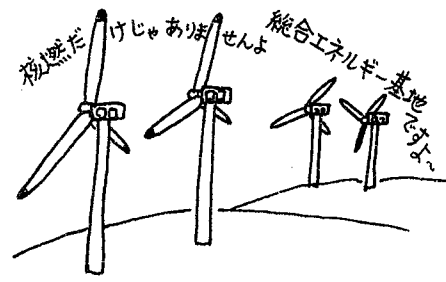
2日 (4/13日)

バスで 六ヶ所村へ!



六ヶ所村は風の村 そしてメガソーラーの村だった

あちこちにたくさんの風車
ヤマセが吹くと、風車の足元に立っていても羽が見えないという…
メガソーラーは赤城山の比ではなく
大海の如くに広がるメガメガソーラー しかし太陽光に恵まれないこの地で、ソーラー発電の効率はいかほどのだろう(聞き忘れた)



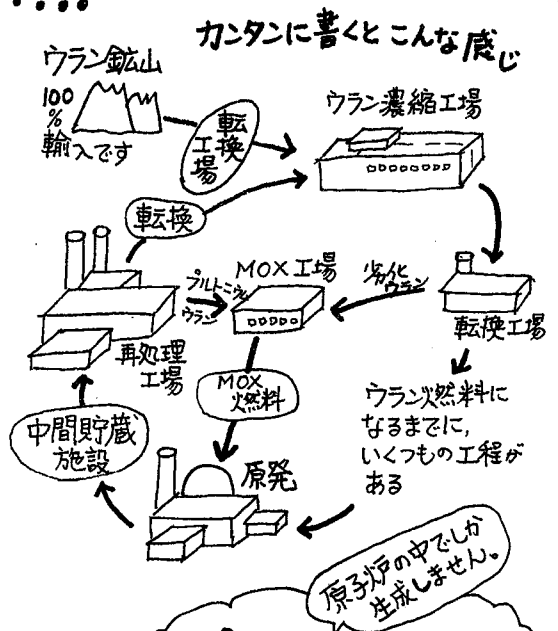
道中、こんな光景を見る。テーブルマウンテン? 荒船山? 上の方を削り取って、六ヶ所の工事に使ったのです。

そこで、核燃料サイクルとは??!!

近付いたら即死のゴミ (使用済核燃料)
原発が運転されると「核のゴミ」が残ります。そのゴミから、残ったウラン、プルトニウムを取り出して (再処理) それを高速増殖炉 (もんじゅ、とかいう名をつけました) で繰り返し使うと、ウラン資源をリサイクルしながら永久に利用することができる! すごい! 夢のようだ!! というのが核燃料サイクルの考え方です。

ところが高速増殖炉は、とても人の手に負えなかった (X)
原子炉でプルトニウムとウランを混ぜて燃やすと、ウランがプルトニウムへと変化して どんどん増える (だから増殖炉)。プルトニウムでととん発電できる～はずだったのだけれど、それはとてつもない無理をする上に、バクダイなお金がかかるのです。日本でも世界でも事故続きで、各国は次々とやめてしまいました。今、この技術にしがみつくなのは日本だけ。(つぎこんだお金は1兆円)

高速増殖炉が実用化できないので、再処理したプルトニウムがいっぱいたまって困っちゃうな～ プルトニウムは原爆の材料だから使うあてもなくためこんでると、世界中からバッシングされちゃう。だったら、ふつうの原発で使っちゃえ。これをMOX (プルサーマル) と言います。福島第1原発3号基がこれでした。MOXは、石油ストーブにガソリンを入れて燃やそうようなものと言われ、非常にキケンなことです。



プルトニウムは原爆の材料

日本は非核三原則によって核兵器は持たないし作らないのですが「いつでも作れるぞ」と誇示したい人もいて「国防のため原発は必要」と公言した政治家もいる。

昨年5月 衆議院・院内集会 (阻止ネット主催) にて

質問 「プルトニウムを原子炉で燃やしたら、再び放射性廃棄物となるのでは? 第2処理工場が要る??」

ぐるぐる回して使うので、大丈夫です

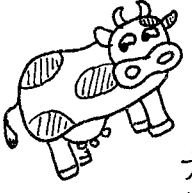
原子力規制庁のエリート姉ちゃんが平然と答えた。参加者一同 ふざけんなー! と思った瞬間。

地上最強の毒物と称されるプルトニウム。それにしがみついて、高速増殖炉やらMOXやらをやらないと、核燃料サイクルは回りません。そして、核燃料サイクルが回ることが、原発の長期稼働の前提となるのです。阻止ネットは、脱原発のためにも核燃料サイクルに反対し、再処理に反対します。

核燃料サイクルは、技術面、コスト面そして安全面 あらゆる面で破綻している!!

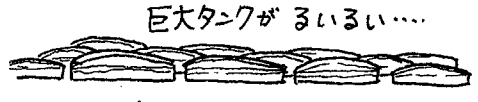
* 六ヶ所村核燃料サイクル基地には、「再処理工場」の他に「ウラン濃縮工場」「低レベル放射性廃棄物埋設センター」「高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター」があります。

六ヶ所村は、人より牛が 夕い村だった



古来、馬の産地だった。
今、牛乳生産量は県の1/4。
しかし加工場はありません。
六ヶ所村で加工されると表示が
「六ヶ所産」と明記されます。
誰も買わない!!
なので、村外に運び出し、三沢あたりで加工
しているのだそうです。地元産業を圧迫する核燃。

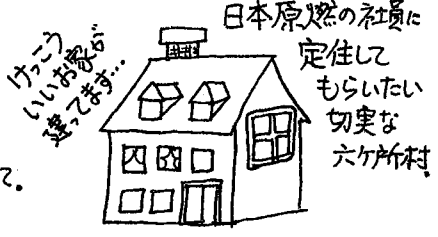
六ヶ所村には、 国家石油備蓄基地がある



巨大タンクが るい...
全国に12ヶ所 ある基地の
第1号だそうで、50数基が
並んでいます。総合エネルギー基地だって。
他に、福井とか秋田とか
新潟とか 北海道とかetc

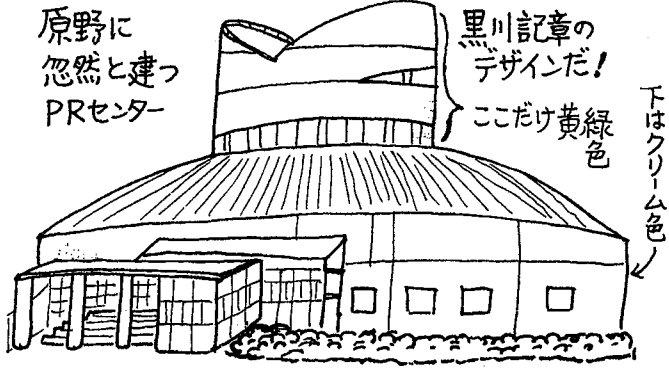
六ヶ所村で家を建てると 100万円のキャッシュバック

(原燃社員さんおいでおいで)



日本原燃の社員に
定住して
もらいたい
切実な
六ヶ所村
しかしそこまをしても任期が
終わるとさっさと帰る原燃社員。

(株)日本原燃 (核燃料サイクルしてる会社) PRセンター見学

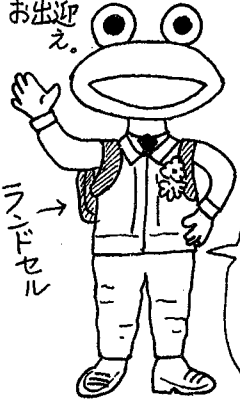


原野に
忽然と建っ
PRセンター

黒川記章の
デザインだ!
ここだけ黄緑色

下はクリーム色

日本原燃広報キャラクター
がお出迎
え。



ランドセル

外側も内側も非常にキレイ
な建物で、財力を物語っています。
展示コーナーも広く、これでもかっ
という安全神話と、核の未来への
希望がある。

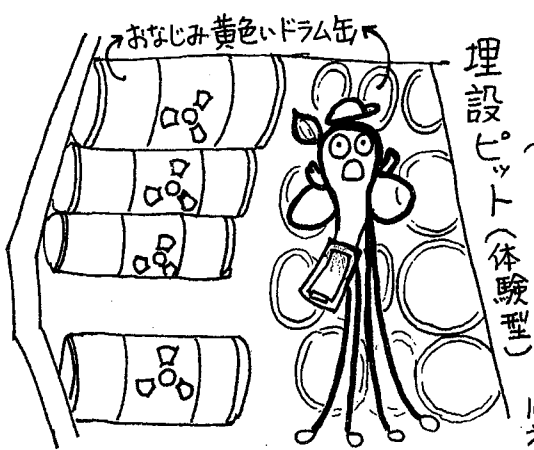
その名も「ツカッテモツカエくん」
ランドセルは春ヴァージョン。なのでしゅ
ぎと季節によって姿が変化するのでしゅ。
着ているのは日本原燃の作業服?

ネーミングは願望とされます。



カナダ産ウラン鉱石の展示。
本物なので、ラティをガラス窓
に当てると、1.4μsv/hまで上昇
でもちょっと離すとすぐ下がる。

*
驚いたのは、展示に混じって
壁一面のポールサーカス(からくり時計)、
きりんの身長計、子どものおもちゃコー
ナがあったこと。
親子でゆっくり遊んでってね。
こわくないからね。
といたいのでしょう。
*

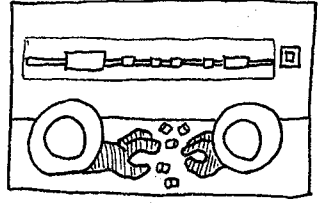


おなじみ黄色いドラム缶

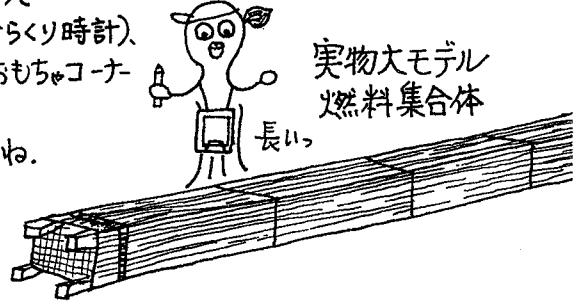
埋設ピット(体験型)

俵積み方式という。
低レベル廃棄物の
ドラム缶は、
こうやって積んで
埋めるのですね。

100バケレルこえたら低レベル廃棄物!
え?食品のぎゅんちんは100だよ?



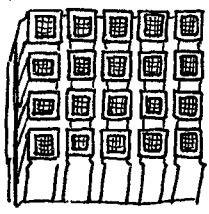
手袋に手を突込んで
MOX原料を組み立てよう
のコーナー。
なぜこんなことをさせる?



実物大モデル
燃料集合体

長い

燃料集合体の束が水に沈んでるところのモデル



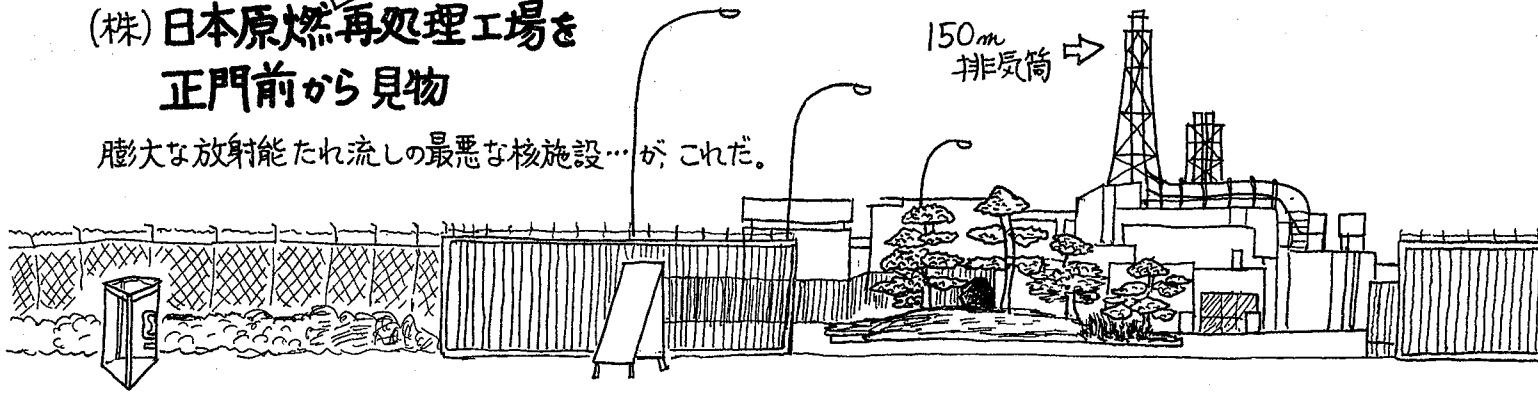
ダミーですが青く光らせてある。
(ウランのチェレンコフ光を再現)
本物のチェレンコフ光は、高崎
原子力研究所の一般公開日
にコバルト60で見られます。

高レベル廃棄物は「ガラス固化体」に
して地層処分と、簡単そうに説明
がりましたが、ガラス固化技術も
日本では難儀しています。
核の制御は理論通りにいかず、
いろんなところでつまづくのです。
何よりも被曝労働がつきものです。
文字通り、命を削った労働です。

六ヶ所再処理工場はまだ本格稼働して
おらず、試験運転時の放射線量は、トリチ
ウムで千億ベクレル単位、ヨウ素で百億ベクレル
単位が空中放出されました。(海中にはもっ!)
稼働したら、原燃が出す1年分の放射能を
1日で排出するという試算です。
トリチウム、クリプトン、プルトニウム、ヨウ素、炭素
etc...放射能核種は200もある。

(株)日本原燃再処理工場を 正門前から見物

膨大な放射能たれ流しの最悪な核施設...が、これだ。



道の向かい側から見物。

150m排気筒は、ふつうの原発の排気筒の2倍の高さ。上空600mまで排気を吹き上げ、放射能いっぱい排気を拡散させ、地上には落ちないことにしているけれど、試運転のよく晴れた風のない日、真下に落ちて、周辺の空間

線量が急上昇したそう。

門の外にポツンと立つ電話ボックスは、一般人が使おうとすると警備員がとんできて「ここは原燃の敷地内だ、出てけ」と言うそう。

※この奥にウラン濃縮工場がありますが、そこから一番近い施設は、よりも寄って学校給食センターです。

六ヶ所村 ショッピングモール 「リーブ」

ただ広く、きれい。



三沢基地の
関係で、飛行機
墜落事故の多い
所ですが、
核燃施設に
落ちることは
"想定外"

上空を、三沢基地のジェット機がゴウ音を上げて飛んで行く。ショッピングモール内は撤退する店が多く、空きスペースとなつたところに「エネルギー・ガーデン」なるコーナーが設けられている。原発や核燃料サイクルの宣伝展示と、おびただしいパンフレットの山...「放射線、て何だろ?」「生活に役立つ放射線」「なるほど、なんとく!放射線」etc... 原発事故を境に、原発安全神話が放射線安全神話へと移りましたが、実感。全国の学校で配布された放射線副読本もありましたとも。

むつ小川原港

この小さな、ひと気のない港が、重要港湾であり「特定港」なのです。日本中の原発から使用済核燃料が運ばれてくる港ですから。(来る時は、さかしまい) 日本原燃までの専用道路があり、がちリゲートが開まっています。

かつて、むつ小川原巨大開発計画というのがありました。この地に巨大コンビナートをつくる計画。ところが頓挫。今度は核のゴミ処理。国策に振り回された六ヶ所村。「首都圏から遠いから。過疎だから?」 過疎地の人間は、首都圏の電気のために犠牲となれ、というのが国策。

おしまい

花とハーブの里

菊川慶子さんのコミュニティ。再処理工場反対を貫く菊川さんのこの里には、全国から人が訪れます。春の花が咲き初めていました。脱原発の拠点でもある。菊川さん、六ヶ所村議選に出馬するも破れる(4/26)



さいごに

「私たちにできることは何か」

消費者として

- ・放射能汚染を確認して食べる
- ・自然を放射能汚染する者を許さない
- ・放射能汚染と向き合う生産者を支える

主権者として

- ・脱原発法を作る
- ・放射能汚染を禁止する法律を作る
- ・放射能汚染する施設を許可させない

人として

- ・放射線の被曝者を思う
- ・核を使わなくてもよい暮らしを創る
- ・核武装の準備を止める

(視察ツアー 事前資料より、植田博作成)